

(2階 ホール)

第10回京都から発信する政策研究交流大会 発表者一覧(パネル発表)

発表No.	登録	団体名	代表者名	所属大学	発表題目	発表概要
1	団体	立命館大学政策科学部平岡ゼミ3 回生宮城班	古谷桃子	立命館大学	東日本大震災における住宅再建の現状と課題～宮城県の事例研究～	東日本大震災の復興において、被災者の生活再建は未だ途上の段階である。中でも住宅の再建は最も大きな課題であり、それぞれの自治体が独自の支援策を講じている。本研究では宮城県内の複数の市町村に対しヒアリング調査を行い、住宅再建に関わる政策を比較した。また、住民団体に対しても調査を行い、多角的に自治体の復興政策を分析した。宮城県では災害公営住宅の建設などハード面での復興が進んでいるものの、移転先でのコミュニティ形成などソフト面での課題は多い。その中で住民と自治体との意識の差や、住民の意見が政策に十分に取り入れられていないという実態もある。復興事業における住民と自治体の合意形成には、被災以前からの自治体によるまちづくりの方針が大きく反映しており、住民本位の政策を取ってきたか否かで合意形成までの期間や質に差が生まれている。住民主体の震災復興のあり方が求められる。
2	団体	研究入門フォーラムJクラス OIC地域連携プロジェクトBチーム	成宮和人	立命館大学	大学生の無縁社会問題へのアプローチ～茨木市の事例～	2015年の立命館大学大阪茨木キャンパス開設にあたり、茨木市に流入する学生と地域住民との連携の形について政策提案を行う。大学と地域の連携の形として、「無縁社会」問題を取り扱う。無縁社会問題とは、地域コミュニティの衰退が進んでいる地域の抱える問題であり、茨木市が現在直面している問題である。この問題の解決に大学生が関わり、解決への手立てとなるにはどのようにしたら良いかについて研究を進める。
3	団体	OIC地域連携プロジェクト Aグループ	西村俊貴	立命館大学	茨木市における多文化共生の可能性～留学生と地域住民の交流を通して～	2015年立命館の新キャンパスが大阪府茨木市に開設される(以下OIC)。そこで我々は茨木市の少子高齢化にともなう高齢者・子ども間の交流の希薄化の進行の可能性に着目し、OIC、立命館大学の学生が仲介役となれるような世代間交流の形の模索、その意義について茨木市という地域の特性も調査しつつ研究を進める。一般的な世代間交流の意義としては地域の活性、世代間の認識のギャップの統一化、相互間にメリットとなる交流と定義されている。それに加え我々の研究では茨木市やOICといった今回の研究フィールドの特徴を踏まえた独自の世代間交流の定義の考案を目標としている。研究の最終目標は高齢者・子ども間のみでなく仲介役としての学生・キャンパスにとってもメリットとなるような世代間交流の形の考案をしたい。
4	団体	立命館大学政策科学部平岡ゼミ	宮入佐介	立命館大学	地方都市における産業振興と人材サイクルネットワークの構築	私たちは立命館大学政策科学部、平岡ゼミに在籍する三回生です。日本の人口の6割以上が暮らすとされている地方、そこにおけるU・Iターンなどの人材誘導政策とはどのようなものなのか、ということに注目し、「地方都市における産業振興と人材サイクルネットワークの構築」をテーマに、現地によるヒアリング調査を行いました。南信州最大の都市である飯田市と同規模でリア沿線となる岐阜の中津川市を対象に比較分析を行い、行政の取り組みでの共通点、相違点を指摘しながら地方都市における産業振興と人材サイクルの関連性を明らかにしていきます。また、飯田市で民間の企業でお聞きした産業振興、人材事業の実態やUターン農家の方にお聞きした生活の様子などをふまえながら人材誘導後の定住政策など地域振興の在り方なども考え、発表いたします。
5	団体	佛教大学上田ゼミ	岩津 萌輝	佛教大学	ご当地グルメを使ったまちおこし-三重県四日市市と松阪市を題材に-	私達は「ローカルフード探検隊」と称し、ご当地グルメを用いた地域活性化に取り組む団体の活動内容を、実際に現地に赴き調査しています。今回は、三重県の2団体を調査してきました。1つは四日市市で「四日市とんてき」を使ってまちおこしを行っている「四日市とんてき協会」、そしてもう1つは松阪市で「松阪鶏焼き肉」を使ってまちおこしを行っている「Do it!松阪鶏焼き肉隊」です。同じ三重県内でご当地グルメによるまちおこし運動を行っている2団体に実際にインタビューをして、これまでの活動内容、団体の抱える課題、そしてこれからの展望など、色々なお話を伺うことができました。この2団体には、それぞれの活動形態や抱える問題の違いが見られた一方、共通する点も見受けられました。今回、私達はこの2団体から学んだことをパネルにまとめ発表します。ぜひ見に来てください。
6	団体	杉岡ゼミ 京都丹波写ガール隊	西村優華	京都府立大学	京都丹波観光スポットゼーンぶコネクトバスツアー	私達杉岡ゼミ京都丹波写ガール隊はSNSを中心とした京都丹波の魅力や情報発信に取り組んできた。その活動の中で実際に地域に入り、得た、住民の声、様々なセクターの活動や要望などを生かし、京都丹波を誰にとっても魅力的かつ住みやすい町に近づけるための政策提言を行う。また観光などで外部から京都丹波へ来てくださる方へのアプローチも視野に入れ、施策としてより包括的で一貫性のあるものを提言するとともに、伝えるということを大切に、パネルを最大限に生かした提言にしていこう。
7	団体	研究入門フォーラム・南信州プロジェクト 定住促進政策班	若林佳織	立命館大学	中山間地域における若者の定住促進政策と今後の展望—南信州地域を事例に—	日本における中山間地域は国土面積の約7割を占め、自然災害の防止や保水機能といった多面的機能を持ち、下流域に住む都市住民の暮らしを支えている。しかし、現在は人口減少が進行し、特に少子高齢化現象が顕著である。故に、中山間地域における若者の定住促進政策は重要であると考えられ、各市町村における全国的な課題となっている。本研究では、それらの課題解決の糸口として今後の中山間地域への若者の定住促進政策の展望を、Uターンという観点から明らかにする。研究において、比較的小規模な市町村が集積し、Uターン者に向けた定住促進政策を推進している南信州地域に焦点を当て、実際にUターン者や行政に現地でヒアリング調査を行った。調査の結果、各市町村の「地域資源」を活かした政策が、Uターン者の移住の際に困難な課題となり得る雇用や住宅問題を解決する糸口になるという結論に至った。それらの可能性についても明らかにする。
8	団体	立命館・茨木市プロジェクトB班	越智悠夢	立命館大学	高齢者に優しい商店街	私達は、来年茨木市に大学移転を行うことになっており、そのため茨木市の商店街に着目しています。その中で、茨木・阪急本通商店街について研究しています。この商店街は茨木市中心部の駅前にある大きな商店街で、地域住民の生活を支えています。現在、日本では高齢化が進んでおり、茨木市も例外ではなく、商店街周辺の地域でも高齢化が進行しています。高齢者の生活圏は徒歩圏内に限られることが多いため、周辺住民の高齢化に、商店街も対応していかなければなりません。よって私たちは高齢者にとって利用しやすい商店街について研究しています。研究内で行った実地調査やヒアリング結果をもとに、提案をしたいと考えています。
9	団体	茨木市プロジェクト	三浦なつき	立命館大学	茨木市における協働事業—協働推進にかかる行政職員の意識—	阪神淡路大震災以降、市民活動団体の存在が目撃されてきた。近年、そのような社会的背景と市民ニーズの多様化やひびく地方財政などの行政課題が相まってされるなか、中間自治体を中心に指針やマニュアルの整備が進む「協働」事業について議論がなされてきた。本研究においては、大阪府茨木市を調査地域とし、協働事業における今後の推進の在り方についての考察を行う。